

第41期 第2四半期 株主通信

MEIKO REPORT

(2015年4月1日から2015年9月30日)

CONTENTS

P.01 トップインタビュー

～上期の実績と下期の取り組み～

P.05 特集

P.06 メイコーニュース

P.07 連結財務データ

P.09 グローバルネットワーク

P.10 コーポレートデータ

裏表紙 株主メモ・ホームページのご案内

証券コード：6787

株式会社 **メイコー**



株主の皆様におかれましては、平素より当社の事業につきまして格別のご支援とご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第41期(2016年3月期)第2四半期MEIKO REPORTをお届けするにあたり、当期の事業の状況と今後の経営戦略についてご説明いたします。

代表取締役社長

亀尾 信一郎

ニーズを的確に捉え、最高の電子回路基板を

Q1 当第2四半期の事業環境と業績についてお聞かせください。

市場は好調。積極施策により増収増益
営業利益黒字転換

当社グループをとりまく事業環境として、欧米諸国は緩やかな景気の回復基調が続きましたが、中国をはじめとする新興国市場では、経済成長に陰りがみられるなど、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。一方、国内経済においては、個人消費の持ち直しや企業の業績改善、設備投資の回復などにより、景気は堅調に推移しました。

当社グループの主要な取引市場である自動車業界では、一時部品在庫の増加によって発注調整をおこなっていたメーカー各社が、在庫の適正化により調達を再開したこと

2015年度上期 連結決算概況

(単位：億円)

	2015年度 上期 実績	2014年度 上期 実績	前年同期比
売上高	473.5	442.3	+31.2
営業利益	5.8	▲12.6	+18.4
経常利益	▲3.1	0.3	▲3.3
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	▲100.5	▲4.9	▲95.5

2015年度上期 決算のポイント

決算概要	増収増益で営業利益黒字転換(前年同期比) ～売上高31億円増、営業利益18億円改善 最終利益は、減損損失の計上で▲100億円の赤字
ポイント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 販売は好調に推移 ～車載向け及びスマホ用 2. 歩留り改善および資源安等により限界利益率大幅改善 3. 第2四半期(7～9月)において構造改革の取組みにより固定費・販管費を圧縮 4. 海外3工場の営業利益黒字化を達成

提供し続けます。

もあり、市場は堅調に推移しました。また、スマートフォン市場においても、これまで市場をけん引してきた中国市場の成熟化に伴う成長率の減速がみられるものの、市場をグローバルでみると、前年比10%以上の需要拡大が見込まれております。

このような環境のもと当社グループでは、販売において、車載向けの新規顧客獲得や既存顧客からの受注量の拡大、高放熱基板や高周波基板などの先進運転支援システム(ADAS)に向けた新商品の提案の実施により、受注拡大を目指して積極的に取り組んだことで安定した売上を確保できました。同様に、スマートフォン向けにおいても一部の海外主力顧客の生産増加に伴い、好調な受注が確保できたことに加え、中華系でも、順調に顧客数を増加させることで安定した売上を確保することができました。

また生産においては、昨年度の業績低迷に大きく影響し

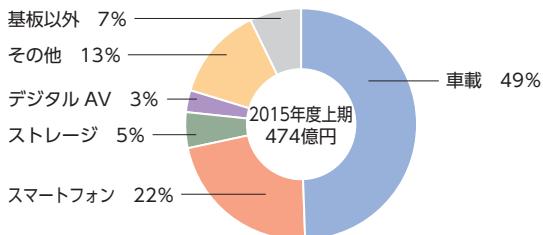
た歩留り悪化の問題について全社をあげた改善の取り組みにより解消することができました。そのほかには、今年の8月に公表した人員削減を含む構造改革も計画通りに進展したことにより営業利益が大きく改善しました。

こうした組織の構造改革や営業力の強化に努めた結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は、473億円と前年同期に比べ31億円の増収となりました。また損益面におきましても、固定費、販管費の改善などにより営業利益が5億円と黒字転換し、大きく改善することができました。しかしながら、為替の円高および第1四半期に実施した減損損失計上等の影響により、経常損失ならびに親会社株主に帰属する四半期純損失は前年同期に比べ下回る結果となりました。

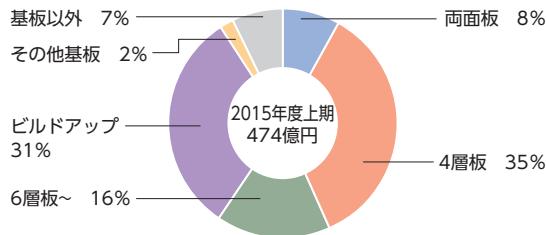
減損の影響により純利益はマイナスとなっておりますが、第1四半期と比較すると業績面では大きく改善しております。生産においての歩留り悪化の問題に全社をあげて取り組み限界利益率を改善し早急に海外3工場の営業利益を黒字化できたこと、構造改革への取り組みにより固定費・販管費を圧縮したことは今後の安定した利益収獲に繋がると考えております。

電子回路基板別の売上構成

商品別



品目別



Q2 今期、新たにメイコーソーラーパーク福島を立ち上げましたが、どのような施設でしょうか。

地域と社会への貢献を目的とした
太陽光発電のための施設

メイコーソーラーパーク福島は、福島工場敷地内に建設した大規模な太陽光発電施設です。福島工場には、敷地内に工場増設を検討していた遊休地約40,000㎡がありましたが、福島第1原発事故の影響で増設を断念し、この土地の活用について再度検討をおこなってまいりました。土地の規模から再生可能エネルギーである太陽光発電所として活用することが環境負荷低減による地域と社会への貢献と事業継続を両立できるもっとも適切な方法であると判断し、2015年6月10日に稼働し、電力会社に発電した電力の売電を開始しました。

Q3 下期の取り組みについてお聞かせください。

引き続き好調な車載、スマートフォン市場を軸に
グローバルで生産の拡大を図り業績回復を目指す

下期では自動車業界では車体販売数の増加だけでなく、自動走行や安全にかかわる機能の充実等、車載関連の堅調な拡大が見込まれ、スマートフォン関連機器も中国や新興国市場を中心として安定的に推移するものと見込んでおります。

当社グループでは、このような市場環境において、当社グループの経営理念である、「顧客に最高の価値とサービスを提供し社会に貢献する」のもと、経営課題に積極的に取り組むことで、ニーズを確実に捉え、グローバルに事業規模を拡大するとともに、グループの収益力を高めていくことが必要であると考えています。引き続き下記の重点推進施策に取り組みつつ、成長市場における新規顧客の積極的な開拓と既存顧客への受注拡大を目指します。

また、収益面につきましては、最重点課題として掲げていた生産性の向上に注力してきたことで、歩留り悪化の解消をはじめ、上期において一定の成果を得ることが出来ました。この成果を一過性のものとせず、継続して取り組むことで、経営体質の強化を図ってまいります。

2015年度 連結業績見込

(単位：億円)

	2015年度			2014年度実績	前年比
	上期実績	下期見込	年間見込		
売上高	473.5	457.4	931.0	909.0	22.0
営業利益	5.8	18.2	24.0	▲28.7	52.7
経常利益	▲3.1	7.1	4.0	10.8	▲6.8
親会社株主に帰属する当期純利益	▲100.5	2.5	▲98.0	▲95.7	▲2.3

Q4 株主の皆様へメッセージをお願いします。

安定的な配当の維持ができるように努め、
企業価値の向上に注力

当社は、株主の皆様に対する利益向上を経営の重要課題の一つとし、利益配分は経営成績等を総合的に勘案し、安定的な配当の維持に努めています。内部留保は、将来にわたる株主の皆様への利益を確保するため、経営基盤をより一層強化、充実するための投資に充当し、今後の事業展開に役立てることを基本方針としています。

当期の中間配当につきまして第2四半期連結累計期間の経営成績に鑑み、誠に遺憾ながら配当を見送らせていただくことになりました。

株主の皆様をはじめ、すべてのステークホルダーのご支援、ご期待に応えるべく、改善のための各々の施策に全力で取り組み、業績の回復と企業価値の向上に努めてまいり所存です。今後とも一層のご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2015年度下期 事業推進のポイント

1 構造改革の完遂

2 財務体質の改善

3 ベトナム工場の強化

4 「品質」「コスト」「納期」でNo.1の工場を目指す

メイコーの新たな取り組み

「メイコーソーラーパーク福島」



メイコーは、福島工場の東日本大震災および原子力発電所事故からの復興と、再生可能エネルギーの導入による環境負荷低減を通じた地域と社会への貢献を目的として、福島工場敷地内に太陽光発電所「メイコーソーラーパーク福島」を建設し2015年6月より発電を開始しました。

「メイコーソーラーパーク福島」は、福島県広野町にある当社福島工場内の遊休地40,000㎡を活用した大規模な太陽光発電施設です。当初遊休地は工場増設に向けた第二工場の建設が計画されていましたが、震災と原発事故により計画は中断となり、この土地を工場建設以外で活用するべく検討をおこなってまいりました。その結果、土地の規模や地形から再生可能エネルギーである太陽光発電所として活用することが、環境負荷低減による地域と社会への貢献と事業継続を両立できる最適な方法であると判断し、太陽光発電を導入しました。

発電量は、一般家庭約720世帯分の電力消費量に匹敵し、この発電所の稼働によって、東日本大震災以降福島県と広野町が積極的に進めている再生可能エネルギーの普及活動と地球環境と持続可能社会の形成に貢献していく計画です。

ソーラーパーク福島 概要

設置面積	33,813㎡
パネル数	9,772枚
発電容量	2,492KW
想定年間発電量	2,600MWh (一般家庭約720世帯分の消費電力)
発電開始日	2015年6月10日

福島県広野町

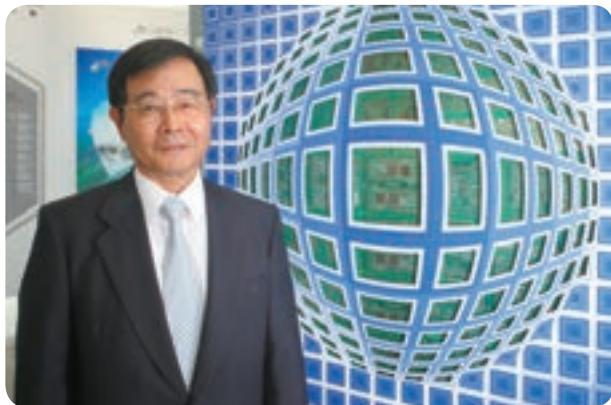
特集

メイコー 創立40周年の歩み

当社は、パターン設計・スルーホール基板の製造を目的に事業を起し、2015年11月に創立40周年を迎えることとなりました。

創業から本社所在地は神奈川県綾瀬市から変わりませんが、当初は9坪程度の鶏小屋を改装した小さな工場でした。

40年前、日本ではマイコンを使用したゲーム機が流行し、当社はその顧客ニーズに合わせて基板製造をおこない急速な成長を遂げました。その後も顧客第一主義の精神のもと、家庭用テレビや携帯電話の需要が高まった時代にはその当時に機能的であった多層基板の製造をおこない、パソコンやスマートフォン需要が高まった時代にはより高密度配線が可能なビルドアップ基板の製造に力をいれました。



2000年12月にJASDAQ上場を果たした当社は、積極的にグローバル進出をおこないました。まず、中国の広州に量産工場を建設し、顧客の大量受注に対応できる生産体制を整えました。中国の次はベトナムへの進出に成功し、次々と新工場を建設し、拡大を進めました。その結果、現在は短納期試作や小量産に適した国内4箇所の生産拠点(神奈川、福島、山形、石巻)、大量生産に特化した海外4箇所の生産拠点(広州、武漢、ベトナム、タンロン)のグローバル生産体制を構築しており、国内はもとより海外の顧客とのビジネスにも取り組んでいます。

当社の顧客第一主義の精神は基板開発にもおよび高い技術力を可能にしています。直近では、環境配慮型のハイブリッド自動車向けの高電流高放熱基板や、最新スマートデバイス向けの高周波特性基板を開発しました。また、当社の研究開発部門では産学連携の共同研究にも積極的に取り組んでおり、他社にはない独自技術の開発を進めています。

「環境の変化への対応力」「意思決定のスピード」が当社の強みであると考えていますが、これは創業当時から変わりません。当社の経営理念にあります「最高への挑戦」をつねに目指し企業価値を高めることで、40周年を迎えたこれからもステークホルダーの方々や社会に貢献してまいります。

IoT (Internet of Things) の時代とメイコー

～メイコーの技術はさまざまな分野で役立っています～



従来のインターネットはおもに人同士がコミュニケーションするための通信網でした。しかし、近年はモノをインターネットにつないで通信をすることや、モノ同士の通信にインターネットが使われる流れがみられるようになりました。これらはIoT (Internet of Things) と呼ばれ急速に普及しはじめています。この流れは電子業界全般でみられ、自動車の安全システムやスマート家電、ウェアラブルデバイスなど、私たちの身の回りの自動車やデジタル機器、民生家電にまでも広がっています。

メイコーはさまざまな分野へ対応する技術ベースを持ちながら、近未来で必要になってくる技術開発に力を入れており、IoTの時代に対応した機能製品や最新技術がいくつもあります。

例えば、自動車の先進運転支援システム (ADAS) に使用さ

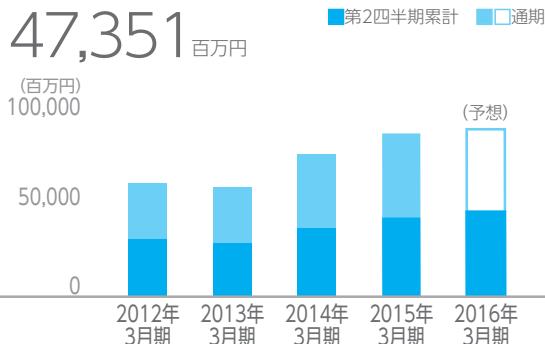


れる基板です。ADASは、他の車両などに追突しそうになる直前にブレーキを作動させる機能や、車線からはみ出さないようにステアリングを制御する機能をもちます。ADASの中でも衝突回避支援システム用途の基板には、高周波特性をもつ高価な材料が使用されます。しかし、メイコーは独自の技術でこの高周波材と通常材とを積層・非貫通穴構造をつくることで「高周波ハイブリット基板」を開発し、低コスト化および配線の自由度を向上させました。

また、産学官と連携した最新研究の中で、MDiM (Molecular Direct Metalizing) という分子接合技術を応用した電子回路基板の開発をおこなっています。MDiMの技術を用いることで、通常の工法では製造が不可能な極薄フレキシブル基板をつくることができます。そして、MDiMは高速伝送特性をもった電子回路を作成できるというメリットがあるため、スマートフォンやウェアラブルデバイスのような通信機器には非常に有用な基板となります。

スマートフォンなどの通信小型機器のマザーボードに使用される基板は、ビルドアップ基板と呼ばれる高密度高細線の薄型基板で、メイコーは元々この基板を得意としています。このビルドアップ基板と上記で紹介した独自の最新技術を組み合わせることで、これからの未来のためのIoTの時代に対応した“未来に必要な電子回路基板”を開発していきます。

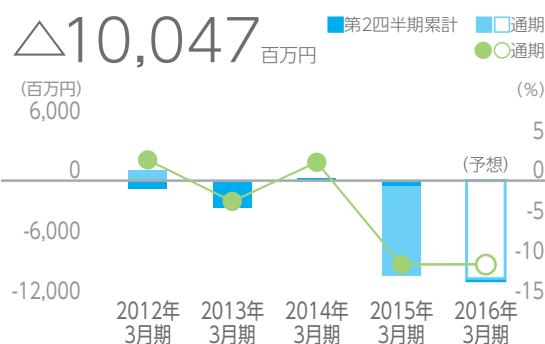
売上高



営業利益 / 営業利益率



四半期(当期)純利益※ / 四半期(当期)純利益率



※「四半期(当期)純利益」は「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」を指します。

連結貸借対照表

(単位: 百万円)

	前期末 2015年3月31日現在	当第2四半期末 2015年9月30日現在
資産の部		
流動資産	51,547	51,851
固定資産	71,416	60,077
有形固定資産	64,914	56,201
無形固定資産	293	264
投資その他の資産	6,208	3,611
資産合計	122,963	111,928
負債の部		
流動負債	47,119	50,354
固定負債	37,222	34,870
負債合計	84,341	85,225
純資産の部		
株主資本	31,354	20,845
資本金	12,888	12,888
資本剰余金	14,809	14,809
利益剰余金	4,052	△6,456
自己株式	△396	△396
その他の包括利益累計額	7,267	5,856
その他有価証券評価差額金	131	49
繰延ヘッジ損益	△161	△427
為替換算調整勘定	7,453	6,442
退職給付に係る調整累計額	△155	△207
純資産合計	38,622	26,702
負債純資産合計	122,963	111,928

財務のポイント

● 連結貸借対照表

当第2四半期連結会計期間末の総資産は1,119億2千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ110億3千5百万円減少しました。負債は852億2千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億8千4百万円増加しました。純資産は267億2百万円となり、前連結会計年度末に比べ119億1千9百万円減少しました。

大きく総資産および純資産を減少させた主な要因は第1四半期末に実施した減損損失の計上によるものです。

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期(累計) 2014年4月1日～ 2014年9月30日	当第2四半期(累計) 2015年4月1日～ 2015年9月30日
売上高	44,234	47,351
売上原価	40,342	41,662
売上総利益	3,892	5,689
販売費および一般管理費	5,154	5,112
営業利益又は営業損失(△)	△ 1,261	576
営業外収益	1,981	120
営業外費用	689	1,005
経常利益又は経常損失(△)	29	△308
特別利益	0	29
特別損失	77	8,469
税金等調整前四半期純損失(△)	△ 47	△8,749
法人税等	445	1,298
四半期純損失(△)	△ 493	△10,047
親会社株主に帰属する 四半期純損失(△)	△ 493	△10,047

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期(累計) 2014年4月1日～ 2014年9月30日	当第2四半期(累計) 2015年4月1日～ 2015年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	923	4,039
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,594	△ 932
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,725	△ 1,614
現金および現金同等物に係る 換算差額	344	△ 151
現金および現金同等物の増減額 (△は減少)	1,398	1,340
現金および現金同等物の期首残高	8,759	9,490
連結の範囲の変更に伴う現金および 現金同等物の増減額(△は減少)	—	363
現金および現金同等物の 四半期末残高	10,157	11,194

● 連結損益計算書

売上高は474億円と前年同期に比べ31億円の増収となりました。損益面では営業利益が5億7千6百万円と黒字転換しましたが、経常損失は為替の円高による影響等で3億8百万円の赤字となりました。特別損失として固定資産の減損損失として81億円を計上したことなどにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は100億円となりました。

● 連結キャッシュ・フロー計算書

当第2四半期連結累計期間における営業活動により資金は40億3千9百万円(前年同期は9億2千3百万円の増加)増加し、投資活動による資金の減少は9億3千2百万円(前年同期は45億9千4百万円の減少)に抑えることができ、フリーキャッシュ・フローとして資金が31億7百万円増加いたしました。

一方、借入金の返済等により財務活動による資金が16億1千4百万円(前年同期は47億2千5百万円の増加)流出しましたが、当期の総合キャッシュ・フローとしては17億4百万円の増加となり、これにより、資金の稼げる体制となってきました。

グローバルな顧客ニーズに応える メイコーの生産・販売体制

■ 生産拠点 ◆ 研究開発 ● 販売拠点 ▲ 関連会社



会社概要

商号	株式会社メイコー
設立	1975年11月25日
本店所在地	神奈川県綾瀬市大上5-14-15
資本金	12,888百万円
従業員数	10,007名(連結) (国内807名)(海外9,200名)
主な事業内容	電子回路基板等の設計、製造販売およびこれらの付随業務の電子関連事業

役員

代表取締役社長執行役員	名屋 佑一郎
取締役専務執行役員	名屋 精一
取締役専務執行役員	平山 隆英
取締役専務執行役員	篠崎 政邦
取締役	佐藤 国彦
取締役	Maren Schweizer
取締役	申 允浩
常勤監査役	伊豫本 齊
監査役	月井 啓之
監査役	越村 安信

関連会社

株式会社山形メイコー	電子回路基板の製造
株式会社エム・ディー・システムズ	電子回路基板の設計
株式会社メイコーテック	電子回路基板の販売
株式会社メイコーテクノ	電子関連事業
名幸電子(広州南沙)有限公司	電子回路基板の製造販売
名幸電子(武漢)有限公司	電子回路基板の製造販売
名幸電子香港有限公司	電子回路基板の販売
Meiko Electronics Vietnam Co., Ltd.	電子回路基板の製造販売
Meiko Electronics Thang Long Co., Ltd.	電子回路基板の製造
MDS Circuit Technology, Inc.	電子回路基板の設計
Meiko Electronics America, Inc.	電子回路基板の販売
Meiko Electronics Europe GmbH	電子回路基板の販売

株式情報

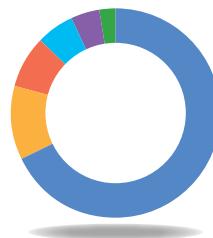
発行可能株式総数	63,200,000株
発行済株式の総数	26,174,076株 (自己株式 629,244株を除く)
株主数	6,537名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
名屋 佑一郎	4,700	18.0
PLEASANT VALLEY	631	2.4
名幸興産株式会社	608	2.3
有限会社ユーホー	521	2.0
名屋 晴行	488	1.9
名屋 精一	442	1.7
株式会社SBI証券	427	1.6
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	412	1.6
香川 立男	408	1.6
HILLCREST, L. P.	379	1.5

※当社は、自己株式 629,244株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



個人・その他	68.0%
外国法人等	11.4%
金融機関	7.9%
その他の法人	6.0%
金融商品取引業者	4.4%
自己名義	2.3%

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
および特別口座 三井住友信託銀行株式会社
の口座管理機関

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-782-031

上場証券取引所 東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)

公告の方法 電子公告により当社ウェブサイトに掲載
<http://www.meiko-elec.com/ir/pa.shtml>
ただし、事故その他やむを得ない事由によ
って電子公告をすることができない場
合は、日本経済新聞に掲載

株式に関するお問合せ

- 住所変更、配当金受取り方法の変更等のお手続きは、お取引の証券会社にお問合せください。
- 証券会社の口座をご利用でない株主様、未払配当金のお手続きは、左記三井住友信託銀行にお問合せください。

ホームページのご案内

TOPページ



製品紹介(身近なメイコー)



CSR報告書

🔍 当社ホームページでは最新のIR情報、ニュースリリースの他、製品紹介やCSR情報もご覧いただけます。当社ホームページもご活用ください。

メイコー

検索

<http://www.meiko-elec.com/>



本社 〒252-1104 神奈川県綾瀬市大上5-14-15
TEL : 0467 (76) 6001 (大代表)

ホームページ <http://www.meiko-elec.com/>

見直しに関する注意事項

本報告書に記載されている情報につきましては、当社の計画、業績など将来の見直しに関する記述が含まれており、これらの記述は、その時点で入手可能な情報および当社が合理的であると判断する一定の前提条件に基づいています。実際の業績は、様々な要素により、これらと異なる結果となり得ることをご承知おきください。



この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC®認証紙を使用しています。見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。